

総務常任委員会

(令和 6 年 2 月 1 6 日)

総務常任委員会

午前10時34分 開会

○中村英仁委員長 ただいまから、総務常任委員会を開会します。

本日の会議は、タブレット端末に掲載した日程により進めてまいります。

それでは、「2. 協議事項 政策提言のテーマ（案）について」を議題とします。

先月の常任委員会において、決定した政策提言テーマである「防災について」のテーマに基づく視察先については、正・副委員長一任でございました。

本日は、その実施にあたり、政策提言につなげる観点から、事前に準備させていただきました。正・副委員長において、視察先と項目の案を私から申し上げます。

5月8日・水曜日から10日・金曜日という予定で行くことを前回決めさせていただきました。

まず、1つ目、福岡県宗像市では、災害時の避難対応効率化の取組についてと防災情報ダッシュボードについて。2つ目、大分県別府市で防災の取組について。3つ目、大分県大分市で、大分市強靱化のアクションプラン2023についてという視察項目で挙げさせていただこうと思っております。

これについて御意見等ございませんか。

古木勝久委員。

○古木勝久委員 日程をもう一度確認させていただいてよろしいでしょうか。

○中村英仁委員長 5月8日・水曜日から10日・金曜日までの3日間です。

古木委員。

○古木勝久委員 先程、代表者会議で話した関連の話から入りますけれども、前任期の際にも、総務常任委員会の政策提言において、防災をテーマとした。

今回もその項目でされる。それはそれでももちろんいいんですけれども、まず、前回の政策提言の総括は、どのような取扱いになるのでしょうか。

○中村英仁委員長 先に、今、お話をさせていただきたいのは、この日程と提案で、まずこれを示させていただいてよろしいですか。

古木委員。

○古木勝久委員 フライングして、すみません。

○中村英仁委員長 そのような形で、御了承いただきたいのですが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 では、報告させていただいたとおり、視察先及び項目については、このように進めさせていただき、御理解いただければと思います。よろしく願いいたします。

次に、古木委員から、今、お話がありましたが、先月の総務常任委員会において、前回提出した政策提言書に対する取組状況というのは、今、私のほうから、防災課に問合せをされていて、ざっくりとした返事はいただいているんですけども、細かいところまでは、つめていないので、次回のときには、お渡しというか、報告をさせていただこうと思っています。

実は、先ほど、古木委員からお話があったとおり、代表者会議の中で、この政策提言に対しての総括をどうしていこうかという話がありました。代表者会議の中では、議会運営委員会に投げかけをして、できれば、各常任委員会が足並みを揃えた形で総括をしていくという形が一番いいかなとは思っています。ただ、私としては各常任委員会の政策提言のテーマと内容というものが大きく異なる状況に、今後、なっていくのではないかなと思います。

結局、各常任委員会で、まとめながらやっていくという形にはなっていくのかなと思っています。私としては、できれば、今後、誰がこの総務常任委員会に来たとしても、前回のことが、分かるような形にしていき、総括というよりは皆様に共有をしていける形にしていきたいと思っています。

委員会として、前回、こういう政策提言をしたけれども、どうなっているのかなというところをしっかりと把握していけるような形にできればと思います。

そして、一度、議会運営委員会で、協議させていただいたうえで、皆様にフィードバックをしていきたいと思っています。ただ、前回の政策提言に関しましては、しっかり御報告をさせていただけるようにはしていきますので、よろしくお願いいたします。

一つ目は、いつ来てもおかしくない災害に備え、防災意識を高めるため各年齢層、全ジェンダーにマッチした防災情報の提供を行うこと。

二つ目は、地域防災力の向上を図るため、自治会、消防団及び学校と協力した自主防災組織の強化を行うこと。

三つ目は、災害発生時における広域防災拠点や後方支援体制の整備と民間事業者からの応援体制の充実を図ること。

ただ、秦野市においても、現在、防災システムがあるので、そこもあわせて皆様見ていただいて、3月定例会中에서도、おそらく触れる方もいらっしゃると思いますので、そのあたりを聞いていただきながら、御相談でいいのかなと思っています。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 では、そのようにさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

その他、委員の皆様から、何かございますか。

八尋伸二委員。

○八尋伸二委員 先般、私たちは、会派視察に、総務常任委員でもあります小山田委員も含めて行きました。その中で、宮崎県宮崎市の防災備蓄に関して、かなりいい先進的な取組をしている事例を紹介していただくことができました。そのあたりも含めて、少し情報共有を後日皆様とできればいいかなというふうに思っています。

簡単に言うと、ベルグループという東京都新宿区にある会社が無償で宮崎市とその防災備蓄のアプリで、何がどこにどういうふうにあるかというのをリアルタイムで持っておく。

そして、御説明いただいた方から、宮崎県宮崎市だけではなくて、近隣、あとは防災協定を結んでいるところ、あとは、普通の商業施設、例えば、秦野市にもあるホームセンターと提携を結んで、常に新しい防災用非常食の賞味期限が来ていない商品を含めて、備蓄しているとの話を伺いました。

いざ災害が起きたときに、その相手の方とどういうふうに物を交換すればいいかということをリアルタイムに分かっていて、それが変化してもすぐ分かるという話をされていました。私は、これを自分の市だけでなく広めていきたいという話をされていました。そういったことも含めながら、進めていただくことが、よいのかなということで少し話をさせていただきました。詳細は小山田委員からよろしくお願いします。

○中村英仁委員長 小山田良弘委員。

○小山田良弘委員 今、カルチャーパークの野球場近くの防災備蓄倉庫には、防災備蓄品がありますが、それも完璧な量があるかということ決してそうではない。例えば、今、ホームセンターが、市内にいくつかありますけども、そういうところ、あるいは、スーパーと提携を結ぶことによって、防災備蓄品を市で管理をする備蓄倉庫に保管するのではなくて、民間の商業施設が普通に営業していて、何かあったときには、そのボリュームを提供してもらうというシステムのため、市の倉庫も多くいらない。

また、賞味期限ギリギリでどうするかっていう、そういう心配もいらない。もうずっと効率的に商業ベースでもできるし、備蓄品として、蓄えることができるという画期的なものを伺うことができました。それをアプリで全部管理をしているということで、どこに何が必要か、何があるのかっていうのを瞬時に分かるので、手際よく配分できるという話を聞けました。簡単に言うとそんな感じのシステムで管理をされていました。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 システムの管理、商品の購入、棚卸など、そういうことに関して、市は全くタッチしてないということですか。

○中村英仁委員長 小山田委員。

○小山田良弘委員 いざというときに、とにかく提供してくださいというそういう提携を結んでいるわけです。もちろん、有償ではあります。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 心配するのは、倒産したときにどうなるんですかね。

○中村英仁委員長 そこは、後ほど、八尋委員と小山田委員に資料を提示していただいてという形でいいですか。

八尋委員。

○八尋伸二委員 承知しました。

○中村英仁委員長 皆様がよければ、紹介いただいた内容も参考にしたいうえで、今年度の政策提言の中に含んでいく。所管事務調査には行きますが、そこだけの中で決めるというわけではなくて、今回、会派視察で先進的ないいところに行っていたので、情報も一緒に政策提言に生かしていただければということを御提案いただいたので、その資料を提示していただき、皆様共有したいのですが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 相原學委員。

○相原學委員 皆様から出た政策提言の案が参考資料であり、その中の10番「近年の災害における消防団の多様な役割と担い手について」で、消防団員を確保するっていう案が出てきています。今回のテーマとその関連っていうのはどういうふうになるんですか。

○中村英仁委員長 前回の総務常任委員会の資料で、今回、参考資料として掲載したのは皆様からこういうものをやりたいという案を再度掲載したわけですが、政策提言ではテーマを絞っていくので、全ての案をカバーできないということを前回の総務常任委員会でも話をさせていただき、了承いただいたと思っています。

相原委員。

○相原學委員 全てできないのだけれども、消防団は、防災の中で、一番大切な部分だと思います。なんと言おうか、ある程度、中心になるものじゃないですか。

○中村英仁委員長 相原委員のおっしゃるとおりですけれども、前回、正・副委員長に一任をいただいたところでございます。

相原委員。

○相原學委員 そうなんですけど、入っているかなと思って聞いた次第です。

○中村英仁委員長 ただ、今回に関しても、所管事務調査に行き、防災をテーマとした大きな話を依頼するので、その中に、入ってくるかもしれませんが、前回御説明させていただいたんですが、例えば、防災アプリとか、そのようなデジタル関係とかを今回、テーマとしていきたいということと、先ほどお話したように防災倉庫で、民間団体が関係してくることなど、それを前回の踏襲ではなくて、別の分野というところを今回の総務常任委員会では、政策提言のテーマにさせていただきたいなという協議を前回しています。

その中で、正・副委員長一任とさせていただきました。当然、相原委員のおっしゃることはよく分かっていますし、その中で、所管事務調査に行ってみないと何とも言え

ないこの三つの場所の所管事務調査を考えていますけれども、その中に含まれる可能性もあると思ってはいるので、完全にこれはやりませんという話をしているわけではありません。

相原委員。

○相原學委員　そうですね、大事な話だと思います。

○中村英仁委員長　それは、もう重々理解はしていますが、これだけ皆様から案を出していただいて、全部組み込むことはできないと御理解をいただきたいのです。

相原委員。

○相原學委員　組み込むことはできなくても、その防災の関連の中の一つで、必要だと思って、話をしました。

○中村英仁委員長　古木委員。

○古木勝久委員　この中に案がたくさん出てきているわけですが、どれを採用したとか、正・副委員長一任ですけれども、それをまとめていただければと思います。

例えば、案1、3、5について、今後検討していきます。とにかくここで言う、案5が該当しますとかそれを言うていただければいいのかなと思います。そこまでの話じゃないのかな。そこまで言っていないけど、所管事務調査に行ってきたからという感じになるのかな。

○中村英仁委員長　小山田委員。

○小山田良弘委員　この資料は、それぞれ皆様からいただいた提案で、全部で13あります。これらを受けて、前回の総務常任委員会で、提示させていただき、どのようにしましょうかと投げかけをさせていただきました。前回も防災関係のテーマでしたが、能登半島地震が起きてしまった関係で、もう一度、国土強靱化も含めて、テーマとして取り上げてみませんかという話であったと思います。その中で、防災についてというのは大まかには皆様に了承いただいたわけです。そこで、案5だけでやるのか、例えば、相原委員が言われた案10を入れるのかどうかは、今、そういう細かい話をしているわけではなくて、政策提言を議論する中で、当然、消防団の役割だとか位置づけだとか必要だと思います。

○中村英仁委員長　古木委員。

○古木勝久委員　ふるさと納税も、結構絡んでくるんですよ。

○中村英仁委員長　小山田委員。

○小山田良弘委員　自分が提案したものを全部取り入れてくれと言うことになるのは難しいので、そうではなくて、防災に関することについて、極力、力を入れるようにして、議論していければと思います。この段階で、案の何番は駄目だというわけではないです。

○中村英仁委員長　先ほどお話をしましたが、基本的に防災をテーマとしていくことを小山田副委員長から言うていただいたとおりですけれども、そこに、デジタルの側面と

いうことを取り入れていきたいと思いますという話を前回私からさせていただきました。

古木委員。

○古木勝久委員 そのことについては、結構、入ってきます。例えば、防災関係で、ふるさと納税も結構あるわけで、話題になっていますよね。もっと、防災関係のふるさと納税を活用しましょうなど。ちょっと話が脱線しちゃいました。

○中村英仁委員長 小山田委員。

○小山田良弘委員 あまり門戸を広げちゃうと、まとめるのが大変になりますので。

○中村英仁委員長 今回、古木委員が言われたとおりの話で言えば、案3の良好なデジタル化についてというところと、案9の待たせない市役所から行かない市役所へというのが合っているのかどうか分かりませんが、こういうところとかを組み合わせながら、防災というところで、進めていければなと思っています。先ほどの案5の国土強靱化基本計画については、能登半島地震のことを受けて、今、どこの自治体も同じような地震が来たときに、対応することが難しいということは、皆様分かっていられると思います。

さらに、現状で防災をテーマとしていければというところ、前回提案をさせていただいた上で、今回、総務常任委員会における所管事務調査のテーマの中に、これを組み込んだということです。

ですから、おっしゃっていることは分かりますが、そのことが入るか入らないかまた皆様と御相談をさせていただければと思いますがいかがでしょうか。

相原委員。

○相原學委員 前回、総務常任委員会で、防災をテーマにしているわけだから、そういうことを踏まえた上で、取組をしていただければと思います。

○中村英仁委員長 その件については、相原委員の意見として、皆様にお話いただければと思いますが、そこは前回のことを踏襲するのか、今後は、新たなものに取り組んでいくのかということは、また別の話になります。

相原委員。

○相原學委員 でも、せっかく前回、防災をテーマとして、かなりつめて話をしたので、そういうことも、取り入れていただければと思った次第です。

○中村英仁委員長 また、これから、もちろん相談をさせていただく予定なので、現時点で、そういう形がとれるかどうかは、また、別の話になると思います。それは、皆様から、前回の話し合いを踏襲したほうがいいのではないかという話があれば、組み込みをしていきたいと思います。

相原委員。

○相原學委員 前回のことを踏襲して、そのとおり行えというのではなくて、結構、1年間、問題を挙げて協議をしたわけですよ。

○中村英仁委員長 それは、その当時の総務常任委員会で、協議をしたわけで、今回は、

今回の形で進めさせていただければと思います。

八尋委員。

○八尋伸二委員 その件ですけれども、先ほど古木委員から、前回の進捗を含めて、どういうふうになっているのかということを確認しないと我々もどういう方向性にしているのかが、分からないので、そこから議論を進めていければというお話だったと思います。

○中村英仁委員長 八尋委員が言われるとおりで、私の一存で決めるところではないですから、皆様と御相談をして、いかなければいけないので、もう駄目とも言いづらいというところもあるので御了承いただきたいと思います。

古木委員。

○古木勝久委員 余談ですが、あまりそうならないようにしますが、他の常任委員会で、例えば、おそらく前回の政策提言の関係は、ほとんど共有化されていないと思います。

代表質問の話も出ましたが、多分、原委員も、前回総務常任委員会に所属していたから、今、出ている話は、分かっていると思いますが、うちの会派で他の常任委員会に所属している委員は、全然分かっていないと思います。総務常任委員会では、そこを整理していただいてと言われたので、していきますけど、いろいろ広いなと思います。防災課だけではなくかなと思っています。

○中村英仁委員長 所管事務調査先で、そもそも防災をテーマとしてスタートとなっているのは、先ほど言ったように皆様から出していただいた中で、正・副委員長がデジタル系と国土強靱化計画を選定したので、そのうえで、具体的なテーマ決めをしていきましょうというお話にはなると思います。それまでの間には、前回の総務常任委員会の政策提言でこういうことを行い、現状こうなっていますというところをお示しさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

他によろしいですか。

大塚毅委員。

○大塚毅委員 最後に一つだけ、ごめんなさい。

全体的に、総括をするので、総括してどういうふうに取り入れられているかということを確認させていただいて、そのときの話になると思いますが、ぜひ、政策提言するには、やはり実現可能なものというか、実現の可能性というのを探りたいなと思っています。どの程度、取り入れられているのかということを確認してからだと思います。前回の政策提言が、どの程度反映されているかってところだと思いますが、理想的なものよりも、やはりすぐ実現できるようなものというのを政策提言として上げていきたいかなということが私の気持ちです。会派は関係ないですが、話をしたところだったので……。

○中村英仁委員長 今、言われたことは、大塚委員の気持ちなので、皆様を納得させら

れるかどうかということは、また、そこに関わってくるので、おっしゃった私の気持ちですというのは、個人の自由意見として、意見ではありますけれども、皆様が同意すればそうなるでしょうし、また皆様と御相談をしていければと思っています。

先ほど、代表者会議の話が出たのですが、政策提言というのは、拘束力や強制力がありません。市長や担当課へのあくまでも自分たちが見てきたものがこういうふうによかったの、こういうふうな形で執行部において、取り入れられるのではないかというところが、パターンになるのではないかなと思うことがまず一つ。

具体的に取り入れてもらえるような提言をしていかなければいけないということが大前提になりますので、それが理想論なのかどうかというのは、そのときの常任委員会のメンバーで出した結論になるので、理想論かどうかということを私は何とも言えないので、当然ですけど、具体例として出す形っていうのが、私も正しいと思っています。

それはあくまでも、政策提言はこういうふうにするというルールに則ったうえでやるものなので、例えば、メンバー全員を納得させられないのであれば、市民も市長も執行部も納得させられないのと同じだと思っていますので、そこは皆様と共有して、しっかりやっていきたいなと思いますので、よろしいでしょうか。

大塚委員。

○大塚毅委員 最後に一つだけ、ごめんなさい。

そうすると、要は、政策提言するのではなく、拘束力がないという話はもちろん理解しているのですが、そこで拘束力を持たせるって言い方もちょっと乱暴ではありますが、何か、そうすると条例とかを作るとかそういう話になってくるかもしれないという可能性はあると思うのですが……。

○中村英仁委員長 条例を作るっていうことであれば、条例を作るっていう提案をするということはあるだと思います。ただ、方向性の問題なので、条例を作ったからと言って、そこに拘束力も実は発生はしませんが、より重いものにしていくっていうことはできると思います。

古木委員。

○古木勝久委員 前任期の文教福祉常任委員会の政策提言で、その話題が出て、そもそも論で、条例から出発しなきゃ駄目じゃないかっていうお考えの方もいらっしゃいました。

ただ、要するに政策提言そのものっていうのは、二元代表制の中で、例えば、先ほど言われたように、理想論でいくのか、あるいは現実的な、それは常任委員会の中で決めていく話で、最初から決まった基準があるわけじゃないんですよ。

まず、条例を作らなきゃいけないとか、あるいは何か法的な拘束力、法令的な拘束力を持たなきゃいけないとか、そういうのはないんですよ。

だから、前任期の話し合いってそういうところから出発してるんですよ。中村委員

長が言われるところは、そこなんです。そこをみんなで決めていきたいと思います。最初から枠組みを作るのではなくてと言うことだと思います。

○中村英仁委員長 確かに大塚委員の言うとおり、何らかの形を作って、執行部からやるかやらないかという返答をもらわなければ、この会議自体が無駄じゃないかって言うこともあるかもしれませんが、だからこそ我々は、聞いてもらえる、見てもらえる、考えてもらえるものを作っていくことが大前提なんです。

ただ、それを最初からそうなるようにではなくて、そこに議論を尽くしていくことが今の役目になると思いますので、それは、先ほど自分の意見がこうだと思っただけで、皆様に納得していただけるようなものに、していただかないという議論ができません。そのような形にして、御了承いただきたいのですが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 では、そのように決定いたします。

今回の開催ですが、3月定例会議の3月8日・金曜日で開催となります。また、政策提言に関する常任委員会については、4月16日・火曜日の議員連絡会終了後に開催を予定したいと思います。

3月の集まる時ぐらいいまでに、皆様にその前回の総務常任委員会の政策提言と今の状況をお伝えはできるかなと思っております。

資料を渡すだけという形が、できればなと思っています。議論に関しては、4月16日・火曜日の議員連絡会終了後になりますので、よろしくお願いいたします。

以上で、総務常任委員会を閉会いたします。

午前11時01分 閉会